

---

## 国際知的財産保護協会（AIPPI）の国際総会、イタリアのミラノで開催される

AIPPI の 2016 年国際総会が先週、イタリアのミラノで開催されました。2000 人を超える知的財産関係者が世界各国から出席しました。オーシャ・リャン法律事務所のジョナサン・オーシャ（Jonathan Osha）、ピーター・シェクター（Peter Schechter）、フランチェスカ・ジョバンニ（Francesca Giovannini）がこの総会に関する報告書を執筆しています。[続きを読む]

総会は土曜日に、特許、意匠、著作権および担保権における IP の統一化に関する研究委員会の会合で始まりました。この会合は、IP 法の国際統一を支える決議を提案する言語について話し合う「分科会」です。

執行委員会のセッション I は、この総会の立法機関として最初の公式な会議でした。その後、開会式とレセプションの直前に、米国グループのための非公式なカクテルアワーとして、初参加者および若手メンバー（定義では 36 歳未満でした！）の歓迎会が開かれました。

9 月 18 日（日）は、次のような会合と催しを含む全日のスケジュールが組まれていました。早い時間に、オーシャ・リャンのフランチェスカ・ジョバンニが、英国の EU 離脱決定が欧州と全世界の IP に与える影響について語りました。次に、2017 年シドニーで行われる総会の研究課題について話し合うセッションが設けられました。「IP と環境技術」の決議に関する常設委員会の会合と全体会議も同様に開催されました。

日曜日の昼食会のイベントは、訴訟における専門家の役割に関する公開討論会でした。ジョン・オーシャに紹介された演者には、米国バージニア州東部地区地方裁判所の判事（退職）ウォルター・ケリー（Walter Kelley）、オーストラリア連邦裁判所のジョン・ニコラス（John Nicholas）裁判官、イタリア、アオスタ地方裁判所のマッシモ・スクフィー博士、日本の知的財産高等裁判所の設楽隆一主席判事などがいます。昼食会は、ジョンソン&ジョンソンに関する IP 訴訟の海外担当責任者であり、AIPLA と AIPPI の米国グループの長であるデニース・デフランコ氏の司会によって和やかに進められました。

月曜日には、IP と食品、寄与侵害、リスボン協定の地理的表示、TPP と TTIP についての最初のグループ公開討論会が行われました。「AIPPI における女性（Women in AIPPI）」の会合が、有名なスカラ座の隣にあるカフェ・トラサルディで開かれました。それに、AIPPI の買い物特別割引がプロセッコワインと共に供されたのです。

日曜の夜は、文化の夕べとして、AIPPI 総会の重要なイベントのひとつである社交と人脈づくりの会が開かれました。これが開かれたのは、ミラノにある 2 つの主要な場所、スカラ座とブレアラ美術館です。

9 月 19 日月曜日は、またも様々な種類の会合が豊富につまった一日でした。(1) 担保権と IP、(2) 意匠に関連する研究課題を扱った全体会議が開かれました。医薬における特許可能な対象、バイオシミラー、「虫食い」申請、医薬/独占禁止についてワークショップが行われました。また、IP とファッション（もちろんミラノなので）、コンピュータ実装技術、欧州のデジタル単一市場、優先権に関する討論会もありました。

昼食会の基調講演は、「EPO : 21 世紀のための模範となる」と題し、欧州特許庁長官であるブノワ・バティステリ氏によって行われました。

月曜夜は全面的に、ミラノにあるイタリア国内外の特許事務所が、事務所やミラノの歴史文化の象徴である最も美しい名所で主催する私的な集まりに当てられました。こうした集まりのはしごは、AIPPI 総会の月曜の夜にはよく行われていることです。総会の出席者とその同伴者の多くのために人脈作りはやむことなく続き、数時間ですが水曜日までずれこみました。

9 月 20 日火曜日は総会の最終日でした。著作権の研究課題に関して討論する 5 つ目の全体会議に加え、最後の 3 つの公開討論会が午前中に開かれました。討論会 IX: 英国の EU 離脱が意味するもの/欧州統一特許裁判所 (UPC) の模擬裁判、討論会 X: 欧州商標制度改革一括法案、そして討論会 XI: パロディに関する自由な意見交換です。

午後は、実行委員会のセッション II (すなわち、運営委員会による結びの会合) が開かれました。運営委員会の結びの会合の協議事項で、IP 統一に関連する 6 つの決議を採択することと、ジョン・オーシャを事務局の第一書記官代理の地位に、ピーター・シェクターを委員会メンバーに選出することが確定されました。

最後のガラ・ディナーは、ピレリ・ハンガービコッカという施設で開かれました。ここは、「脱工業化社会の空間」、すなわち元は巨大な機関車工場で、今はコンテンポラリーアートの促進と制作のための専用スペースに生まれ変わった施設です。